

「腎」の力を付けて足腰を強化 独活寄生丸で寝たきりの防止を

足腰の悩みは「腎」の衰え

日に日に寒さが厳しくなっていて参りました。それにつれて、腰痛や関節痛でつらい思いをされている方も多くいらっしゃるかと思います。最近よくつまづくようになった」「膝に力が入らなくなった」「足が重く歩くのがおっくうになった」などのご相談をよくお受けします。このようなご相談を症状を漢方では「腎の力」が弱っていると考えます。腎は生命エネルギーの源とも言われる身体の重要な部分で、骨や筋肉を丈夫にしたり、体を温める働きがあります。つまり、腎を強くすれば骨や筋肉の老化も遅くなるのです。

「腎」の強化に独活寄生丸

老化を遅らせ骨や筋肉を丈夫にする代表的な生薬に桑寄生（ソウキセイ）と杜仲（トチユウ）があります。

桑寄生とはヤドリギのことです。昔リウマチに悩む人がいろいろな生薬を試しましたがなかなか治らず、最後に桑の木に寄生した植物を煎じて飲んだところ病気が治ったという物語があります。ヤドリギはいろいろな木に寄生しますが、この物語にちなんで「桑寄生」と呼ばれるようになりました。桑寄生は老化による骨粗鬆症や膝関節症などの退化性の骨変形による腰痛、膝

痛にも痛みを和らげる目的でよく使用されます。

杜仲は日本では葉を使った杜仲茶が有名ですが、漢方薬では樹皮を使います。杜仲の皮を引きさくと粘りけのある樹脂が糸を引きます。これに筋肉を強くする働きがあり、特に腰痛に効果があります。

この二つの生薬には「腎」の衰えを補う作用があります。古来より漢方では「腰は腎の府」と呼ばれるように、腎と腰には深いつながりがあります。腎が衰えるとまず腰にやってくるという事です。痛くはないけどどうも足腰がだるいという方は腎虚といって、腎の働きが衰えてきた証拠です。つまり足腰のたるさは腰痛の注意信号なので、痛み出す前に腎の衰えを補えば大丈夫です。

今回おすすめする「独活寄生丸」(どつかつきせいがん)には前述の二つの生薬の他にも独活(ドツカツ)やゴシツ・当帰(トウキ)・センキュウなど一六種類の生薬を配合しています。独活はシシウドのことです。どんなに強い風が吹いても、独りで生き活きと立っていられるくらい強い性質を持っているために名付けられました。漢方の世界では昔から痛みを治す特效薬として有名です。

寒冷により体の中を巡っている気血の流れが悪くなると痛みへと発展することがありますが、ゴシツ・トウキ・センキュウなどが血行を改善し、血液やエネルギーの流れを良くします。独活寄生丸はただ単に痛みを取るだけでなく、元気の源である腎の働きを補う作用があるので、飲み続けることで身体が元気になってきます。ある八〇歳代の男性は大腿骨折を患った後独活寄生丸の服用で回復し、杖をつきながら一日二〇〇〇歩も歩けるようになりました。寝たきりから離脱し日常生活動作が改善することで本人はもちろんの事、家族もたいへん喜んでおられます。



クラシエ「独活寄生丸」

六〇包(一ヶ月分) 八、〇〇〇円＋税
一日二包を目安に服用してください。

「独活寄生丸」についてののご相談ご質問は店頭だけでなく、お電話でも受け付けております。

「健康的にダイエット！」なら「マイクロダイエット」をお試ください

マイクロダイエット正規取扱店 **ゆがの薬局**

賀茂郡河津町浜149-4 TEL0558-34-0150
当店ウェブサイト <http://www.yugano-ph.co.jp>

